

3月5日の川崎市予算審査特別委員会での質疑から

横浜市と連携し、魅力ある沿線地域の活性化や 利便性の向上、交通結節機能の強化検討を進める

あまがさ裕治 令和6年度横浜市の具体的内容と取り組みについては？

まちづくり局長 横浜市交通局からは、事業費の再算定や将来の需要予測を考慮した事業採算性の見直しなど、国の鉄道事業許可取得に必要な事業計画の精査、見直しを進めており、令和6年度も引き続き、駅やトンネル構造等の事業計画の精度を高めていくための必要な調査や、設計のさらなる深度化を図っていく予定であると聞いている

あまがさ裕治 ①工法の工夫による工事期間の短縮などの検討、②許可取得後に必要となる事務手続きの両市の準備とすり合わせ、③事業収入に関係する魅力ある沿線まちづくりの協議などは進んでいるか？

まちづくり局長 ①は今後の調査や設計に基づく施工計画の検討の中で深度化を図っていくと横浜市交通局より聞いている。②は鉄道事業法や都市計画、環境影響評価などが、効率的かつ円滑に手続きが進むように横浜市と連携した取り組みを進める。③は横浜市交通局による横浜市営交通経営審議会の答申でも、「3号線延伸による鉄道ネットワークの充実で、沿線地域の活性化や利便性の向上が期待されるので、早期の乗車定着が図れるよう、まちづくりとともにしっかりと連携をしていくべき」との方向が示されている。

あまがさ裕治 交通結節という大きな変化を土台と

ブルーライン(戸塚～湘南台:約7.4km)
許可取得から供用開始まで約8年4か月



上記の工事期間は約30年前であり、
工法の進化により、許可から供用開始までは、
さらに短期間で進められるようになっている

して進める新百合ヶ丘のまちづくりを、市民とともに創造していくためには情報の適切な公表は不可欠だが、副市長の見解は？

副市長「適切な情報発信に努める」

藤倉副市長 3号線延伸は市民の関心が大きい事業であり、事業を進める上では、地権者や多くの市民の理解と協力が不可欠。今後の横浜市や国などの協議状況を踏まえ、適切な情報発信に努める。

今年4月、新百合ヶ丘駅周辺住民へアンケートし、意見反映を行い、 令和6年度内に「新百合ヶ丘駅周辺地区のまちづくり方針」策定 新百合ヶ丘駅周辺は「2号再開発促進地区」に

あまがさ裕治 新百合ヶ丘駅周辺再開発の方向性を考えるときに外せない重要施策が駅周辺の交通混雑の原因となっている、バス便は100%、タクシーは90%という南口ロータリーへの集中解消に向けて、検討課題を提示してきた。昨年は、都市基盤整備が脆弱な北口エリアの交通環境改善について、短期的な対応として北口ロータリーの運用見直しと北口から世田道入口交差点に出る右折帯を延長拡大させる交差点の改良を実施した。最重要課題であるバス発着を視野に入れた北口ロータリーの機能拡大については藤倉副市長からも課題意識を共有する答弁ももらった。昨年12月8日の麻生区の予算要望の際にも、市長に改めて駅周辺の混雑解消への抜本的な取り組みの要望をし、今回市長の施政方針

でも明確に「交通量の増加等の課題を踏まえ、駅周辺の渋滞緩和に向けて早急な取り組みを進める」と示された。市長の抜本的な解消に向けた考え方と決意についてお示しいただきたい。

福田市長「ハード、ソフト両面から 広域拠点にふさわしい、賑わいある まちづくりを着実に進める」

福田市長 新百合ヶ丘駅周辺のまちづくりについては、豊かな自然環境や文化・芸術等の地域資源を活かした魅力ある広域拠点の形成が求められる。土地区画整理事業が完成して約40年経過し、駅周辺における交通渋滞等の課題も生じていることから、横浜市高速鉄道3号線延伸を契機に、将来を見据えた土地利用の誘導や交通結節点の機能強化に向けた取り組みが必要であると認識している。特に、駅周辺においては、低未利用地等の土地利用の転換の動向等を適切に捉え、戦略的に民間活力を活かしたまちづくりを進めることが重要。今後も市民の皆様や関係権利者の皆様と幅広く議論を継続するとともに、様々な可能性について検討進め、交通環境改善をはじめとして、ハード、ソフト両面から、本市の広域拠点にふさわしい賑わいのあるまちづくりを着実に進めていく。

あまがさ裕治 横浜市高速鉄道3号線延伸の促進に重要なファクターとなる沿線の魅力あるまちづくりの中心、「整備開発保全（整開保）の方針」と「新百合ヶ丘駅周辺まちづくり方針」の策定。進捗状況は？

まちづくり局長 根幹的な都市計画の方針を定める「整開保の方針」の令和6年度内の見直しに向け検討を進めており、令和4年12月にはパブリックコメントを行い、令和6年3月には見直し案を議会に報告し、公表する予定。今後、説明会や縦覧、公聴会などを実施する。新百合ヶ丘駅周辺地区においては、「整開保の方針の見直し」において、特に一体的かつ総合的に市街地の再開発を促進すべき相当規模の地区を定める「2号再開発促進地区」に位置づけ、土地利用転換の動向

などを適切に捉えながら、機動的にまちづくりを進めていく。これに合わせ、まちの将来像を土地利用や交通系体系等について具体的に示す「新百合ヶ丘駅周辺地区のまちづくり方針案」を本年秋ごろをめどに示し、パブリックコメントを実施後、令和6年度内に策定していく。

あまがさ裕治 行政計画策定には欠かせない市民意見の聴取については、過去4回の議会質問で、駅周辺の方々にアンケート調査や意見交換会の実施、区内イベントに合わせた意見募集の実施など今後も様々な機会をとらえて積極的に実施していくことなどが示された。今後の具体的な取り組みは？

まちづくり局長 まちづくり方針の策定にあたっての意見募集について、檜山公園や南口デッキで行われるイベントなどに合わせて、意見募集を継続的に実施しており、駅周辺の町会代表者などとの対話を開始した。さらに今年4月をめどに、駅周辺にお住まいの方々へのアンケート調査を行うなど、区役所と連携した意見募集機会の創出を含め、様々な機会を積極的に捉え、意見を聞いていく。

副市長「庁内横断的な検討会議で まちづくりを着実に進めていく」

あまがさ裕治 答弁では地権者から駅周辺の低未利用地の開発意向も示されていることが明らかとなった。横浜市高速鉄道3号線の延伸事業の鉄道免許取得に当初予定からのタイムラグが発生している今こそ、まちづくりの絶好の時間と捉えて川崎市関係部所が総力をあげて取り組む組織を作る必要があるが、藤倉副市長から明確な答弁を。

藤倉副市長 横浜市高速鉄道3号線沿線については、広域的な鉄道ネットワークの強化とともに、北部地域の一層のアクセシビリティ、利便性の向上や、地域の活性化など、本市にとっても大きなメリットをもたらすものであり、大変意義あるものと考えている。早期事業化に向けて横浜市と連携し取り組みを進めるとともに、当該地区のまちづくりについては、3号線延伸による周辺環境の変化や、駅周辺低未利用地の将来的な開発意向などを踏まえ、課題解決に向け、様々な観点から広くまちづくりを検討していく。検討に際しては、市民や権利者の皆様から引き続き意見をうかがうとともに、現在、関係局区で構成する庁内横断的な検討会議を立ち上げる準備をしており、当該地区のまちづくりを着実に進めていく。

<要望 新百合ヶ丘再開発室に> 「庁内検討会議を、立ち上げ早い段階で新百合ヶ丘再開発室のような専任の部署に格上げすること」を、副市長に要望したところ、副市長もはっきりとうなづかれました。

郵便はがき

215-8790

料金受取人払

麻生局承認

1401

差出有効期間
2026年3月
20日まで

(受取人)
川崎市麻生区高石
3-27-4

あまがさ裕治
事務所行

あなたのご意見をお寄せください

【設問7】まちづくりへの要望は？ の回答もこちらにどうぞ

お名前	住所・電話
ふりがな	川崎市
	TEL ()